

平成23年1月4日

## 理事長年頭のあいさつ要旨

本日、理事長 齋藤 寿臣は、全役職員に対して年頭のあいさつを行いましたのでお知らせします。

### <あいさつ要旨>

昨年の当金庫の出来事をふり返ってみますと、まず2月に県内信金のトップを切って、中小企業金融円滑化法の金融庁検査がありました。ほとんど指摘事項もなく、大変良い評価を得たと思っております。

5月にはセンター南支店を新築いたしました。便利なところに来たとお客様からも好評です。

横浜市全体の出来事としては、11月にAPECの首脳会議がみなとみらいで開催されました。

横浜が国際都市として立派に、また安全に首脳会議の会場の役割を果たしたことで、全世界における知名度が飛躍的に高まったことは大変良かったと思います。

新年における当金庫の課題についてお話しします。

何といたっても貸出の増大によって安定的な収益を確保することが必要です。強靱な体力を作って、どんなことがおきても黒字が確保できるようにすべきです。

また、預金については本年3月末に年金振込件数10万件はぜひとも達成しましょう。他の金融機関にはない年金受給者のメリットを強調してください。

長期的に私どもの位置する神奈川東部地域の経済の可能性については全く疑問を抱いておりません。明治以来営々として築きあげられた産業基盤や豊かな資産を保有する人口の集積は目覚ましいものがあります。金融資産の運用形態もさまざまなので、投資信託、公共債、保険などの営業も充分やりがいがあります。

ストックの面だけではありません。日本全体の人口が停滞している中で、この地域はわずかではありますが着実に人口が増加しています。若い人の割合も多いです。この地域でシェアを増加させていくことは当金庫の存在意義を高めます。

本年の皆様活躍を期待して新年のあいさつとします。

たしかな明日のお手伝い



横浜信用金庫

神奈川・東京に60店舗